



安心とつるおのり下町「川の手」をめぐりて

防災まちづくり瓦版

発行／一寺言問を防災のまちにする会

平成15年12月15日

いちてらこととい

一寺言問／防災まちづくり瓦版

編集／一寺言問を防災のまちにする会・編集局
発行／一寺言問を防災のまちにする会
代表 青木 隆雄

連絡先／墨田区都市整備担当地域整備課
〒130-8640 墨田区吾妻橋1-23-20 Tel.(5608)6261

一言会の会長さんが 変わりました

一言会発足から十八年間、会長をお務めいただいた則武勝商さんが、東向島一丁目中町会の会長を変わることとなったため、「一言会会長は参加している町会長の互選で決める」と言う申し合わせにより、一言会の会長も交代することになりました。



青木 新会長

理事会で協議した結果、東向島一丁目中町会の新会長となられた青木隆雄さんが一言会の新しい会長となりました。

則武前会長には、これから名誉会長としてご助言をいただくとともに、理事としても今後ともご活躍いただくこととなります。

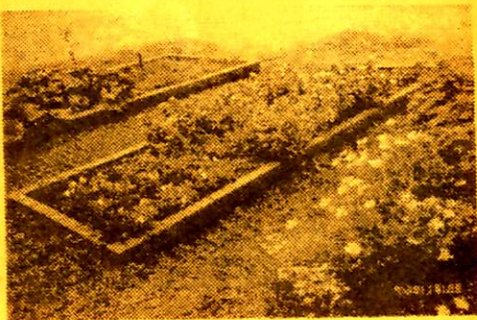
則武名誉会長の「一言」
一言集会所の用地取得など沢山の思い出がございしますが、これからも自分たちのまちの「防災まちづくり」に、一人の理事として協力をしていきたいと思えます。今後とも「一言会」に皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

立派な花壇となりました

瓦版49号で募集した、一言集会所前の花壇を育てていただく皆さんが次の四名の方に決まりました。

- 高橋 保 さん (東向島一在住)
- 田中 孝一 さん (向島五在住)
- 森山 照代 さん (東向島一在住)
- 桜田 勝子 さん (東向島三在住)

2月から皆さんが丹誠を込めて手入れをしてくれたおかげで、今年の集会所はより楽しい「まちのひろば」になりました。



いらっしやいませ 見学の皆様

- 平成15年
- 2/4 港区議会まちづくり研究会
- 2/14 国際地域開発センター「ベトナム国都市開発研修」
- 5/30 国際地域開発センター「開発途上国都市開発研修」
- 7/25 東京都建築・防災まちづくりセンター「まちづくりフロント研修」
- 8/26 震災復興模範訓練「プレまち歩き」
- 8/28 大阪外国語大学生「向島留学」(5人)
- ～9/7
- 9/6 震災復興模範訓練「まち歩き」
- 9/18 日上市豊浦地区婦人会まちづくり協議会
- 10/26 江戸川区西瑞江地区まちづくり協議会

(平成14年12月からのまちづくり事業部扱い等)

日本ではじめて 「震災復興模範訓練」 一寺小地区で開催

東京都が提案した「震災復興模範訓練」は、震災後のまちの復興について、行政だけでなく、住民が主体的に考えることを目的にしています。墨田区では都の提案を受け、この試みを一言会の活動が続き、一寺小地区で開催することになりました。

この訓練は、八月から十一月までに五回のスケジュールで行われ、参加者は延べ百十八人(四回まで)。一寺小地区の各町会から三名程度の代表と、三つの商店会、一寺小学校、建築士事務所協会、事業所としてヒノデワシ(株)、救急医療に詳しい白鬚橋病院、そして一言会理事等が参加しました。

一回目は、行政と専門家から、模擬訓練の説明を受け、参加者が三グループに分かれました。

二回目は、各グループが担当する地域を歩き、災害に弱いところやまちの再建復興に役立ちそうなところを検証して、地図上に書き込みな



五回目は、震災後の二ヶ月以後に約五百世帯の仮設住宅(時限的市街地)が必要という設定から、「まじこ」「何を」「どのくらい」「どのようにして」つくるのかを検討しました。

最終回は、平行して模範訓練が行われた練馬区の貫井地区とともに、東京都庁舎で行われた「震災復興シンポジウム」に参加し、大通り商店会から参加された榎本さんが経過の報告を行い、パネルディスカッションで一言会の佐原理事が感想などを述べました。



から「防災マップ」を作りました。

三回目は、震災後の三日から約一ヶ月後の、避難所(一寺小)で、参加者が自分や近所の友達等が被害者になったつもりになり、百七世帯、二百六十七人の避難者像を想定し、必要な「仕事」「役割」「サービス」等を整理しました。

四回目は、震災後の一ヶ月から二ヶ月の避難の状況やまちの様子、阪神淡路の経験から約三割の世帯(約千五百世帯)がまだ自分の家に戻れないと想定して、どのような仮設の住宅や仕事の場、また組織やサービスを考えたらばよいかを検討しました。

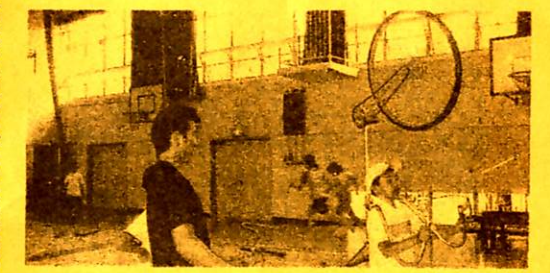
・「ふれあいと思いやりの町」

東向島一中町会では、ゴミの出し方、マナー向上など、下町らしい仲の良い町会づくりをめざし「ふれあいと思いやりの町」の看板を露伴(藤でんれん)公園などに設置しました。



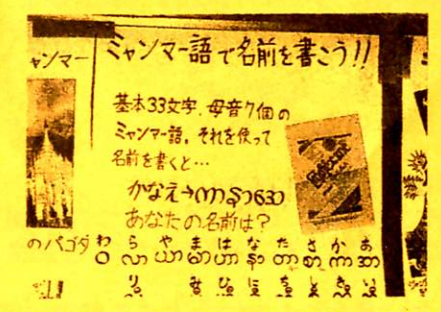
・まちの中のアートイベント

夏から秋にかけて、自転車を使った「ジャイロ」、料亭・美家古さんでの「ツママレ」など、一言集会所を中心に、若手芸術家さん達による変わったイベントが開かれました。



・向島で国際交流「きてみて」

9月6日、一言集会所と広場で、大阪外語大の学生さんが「きてみて」を開催。ミャンマー、フランス、ドイツ、カンボジアなどの言語や生活文化を紹介しました。



八月二十四日正午、夏の暑い盛りにも、東京中で三十四万人が参加し「打ち水」をして、気温を下げようという壮大な作戦が実施されました。



東京のまちでは、コンクリートの建物や道路などが日中の日差して熱くなり、夜にその熱が放出されるため熱帯夜が続くことになりました。また、暑さをさげるため冷房機器を使うので、その廃熱がまちの気温をさらに上昇させます。

大江戸打ち水大作戦は、このような悪循環をなおそうと、昭和三十年代あたりまで、まちでよく見かけた「打ち水(撒水)」を復活させようとする計画です。

大江戸打ち水大作戦 涼しさ実感

作戦本部は、一寺小に置かれ、児童がペットボトルを二本ずつ持って、一人あたり約1mの校庭に「打ち水」を行いました。また、地蔵坂通りや路地尊が置かれている広場、墨田川高校、さらには掲示板の案内に賛同して参加した皆さんにより、雨水やお風呂水などを使い、まちの各所で一斉に「打ち水」が

行われました。特に私たちのまちでは、ヘリコプターから赤外線写真で地上の温度の変化を記録するとともに、多くの学生さん達がまちの各所の気温を観察しました。

理論的には、一畝の水を1mの広さに撒くと、約一度の気温が下がるといわれていました。確かに、一寺小学校の校庭では一度から二度、ジャブジャブと水を撒いた地蔵坂通りではそれ以上の気温が低下しました。参加した皆さんも少し涼しくなったまちを体験できたのではないかと思います。

今回は、観測のため正午に行いましたが、夕方に「打ち水」をすると、冷えた道路などが再び暖められることがないため、さらに涼しさを実感できます。

この作戦では、水道水を使わず、お風呂の水や雨水を使用しました。私たちのまちには、路地尊などの雨水貯留施設が各所に設置され、その合計は三十以上にもなります。これらの施設は、被災したときには飲み水にも使えるように設けられたものですが、無くならないように気を付けながら、植木の撒水などに普段から利用しています。

来年の夏には、夕方には隣近所で一緒に雨水の「打ち水」をされればさらに快適なまちになるのではないのでしょうか。



有季園利用者募集



11月1日 第15回「有季園収穫祭」が楽しく開催されました。今年も、冷夏、長雨、台風など厳しい気象条件でしたが、皆さんの丹精こめた手入れでご覧のように見事な収穫がありました。



応募券

あなたも、向島有季園(向島5-35)で、楽しい野菜づくり・花づくりを体験してみませんか。ご希望の方は、官製はがきに右下の「応募券」を貼り、住所・氏名・電話番号をご記入の上、左記へお申し込みください。応募者多数の場合は、二月に「公開抽選会」を行います。

【利用期間】平成十六年三月一日～平成十八年一月三十一日

【応募条件】一寺言問地区(堤通一丁目、東向島一・三丁目、向島五丁目)にお住まいの方

【申し込み先】〒131-0032 墨田区 東向島 一八一五 一言会々長 青木隆雄

【締め切り】平成十六年一月三十一日(必着)

- ※利用者は、次の事項を守ってください
- ☆二年間、本人が責任を持って利用する
- ☆二年一回開催の利用者会議に出席する
- ☆六月の園周の生け垣剪定会に参加する
- ☆毎年秋の収穫祭に参加する
- ☆園の近隣居住の方に迷惑をかけない

お問い合わせは 有季園担当理事 阿部 3622-0542

スタッフ紹介 No. 42



小林 正さん 墨田区地域整備課

小林さんは、昭和19年長野県生まれ。男ばかり五人兄弟の末っ子。お父上は旧国鉄の鉄道マン。小林さんの仕事一途は、お父様譲り。昭和38年に墨田区役所に奉職、以来40年あまりを墨田区一筋に勤めてこられた。

小林さんと一寺言問防災まちづくりとの関わりは平成9年からで、補助金事業が終了したあと窓口となったため、まちづくりで出来た路地尊、広場、道などの修理修復には大変苦労されている。

今年の春、会古路地の隣の中村さん宅の火災で会古路地に水が溜らなくなり、北隣の浦野さんをお願いして雨水を頂戴することになった。その時は、道路を挟んで水を通すため、小林さんは、一言会の徳永さん・佐原さん等と、柱を立て、上空にパイプを通し雨水を溜めることに成功。予算がない分、知恵を出し手間をかけ、何とかやりくりしての維持管理だ。また2月に、一言集会所前の花壇づくり協力者を募集した時も、養分のある土を調達し、一人で土入れなどもやってくれた。更に、有季園の収穫祭では、利用者の方たちとの交流も忘れない。陰に成り日向になって一言会のまちづくりを支えてくれる縁の下の力持ちである。

文花に在住して25年の墨田区民。お年頃のお嬢さん二人と奥さんとの4人暮らし。お酒をこよなく愛し、浅草、本所吾妻橋、向島界隈を夜な夜な徘徊(?)されると聞く。来年3月には定年退職されるが、退職後も一言会のまちづくりを応援してくれると約束してくださった。感謝! 感謝!